

「イメージが変わりました」

文教大学 星野晴彦

中村秀一先生と言えば、改革派ということで有名な方なので、とてもお話を楽しみにしていました。社会福祉士及び介護福祉士法の改正、介護保険法の改正をリードなさっていることは存じ上げていました。特に介護保険法の改正の講演の際に、聴衆に「ここは誤解しないで下さい」ときつくおっしゃるときに、「とても怖い方」というイメージもありました。

しかしかかわっておられた政策は、それだけではなかったことが、よくわかりました。社会福祉の大きな変革のいつも重要なところにおられたということが、改めてよくわかりました。

私はスウェーデンという国を尊敬しています。そのこともあって、中村先生がそこに駐在されたことは、先生の改革姿勢の根本を作られたのではないかと推測しています。官僚の村であれば、とても考えられないことが現実、英知をもって展開しているからです。これは間違いでしょうか。

他方で、中村先生ほどの方もこの大きな国の官僚システムの流れに巻き込まれざるを得ないということもよくわかりました。

たとえば中村先生が人事の流れの中で、いろいろな部署を転々とされているということです。中村先生がずっと社会福祉士関連の部署にいればもっとドラスティックな改革がされ続けただろうなと素朴に思います。

限られた在籍期間で、法制度の実態を理解し、それに改革をしていこうとするには、相当の能力が必要だと思います。

官僚のことが多く批判されることもある中で、法制度の解釈を瞬時にする能力には、私は感服をしています。たぶん中村先生はその官僚たちのはるか上を読み込んで改革をしてこられたことと存じます。

また官僚が政党や政治家の間で、時にはおかしいことを言われる中を調整しながら本来の国の在り方を求め続けるという姿も改めてすさまじいものがあると思いました。その資料作りなどで、寝る時間がないのだろうなと思います。しかし官僚の考えるように政治家たちの思いは動きません。

そして最後に、にっこりと中村先生が「素人集団ですみません」と言われたのは、本当の大物だから言える発言なのかなと感じました。

「怖い方」というイメージから、なんだかイメージが全く変わりました。